



(様式第9)

番 号  
平成 23 年 10 月 3 日

関東信越厚生局長 殿

開設者名 学校法人 聖マリアンナ  
理事長 明石 勝也

聖マリアンナ医科大学病院の業務報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	122	人
--------	-----	---

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	510人	13.1人	523.1人	看護補助者	38人	診療エックス線技師	人
歯科医師	人	人	人	理学療法士	18人	臨床検査技師	91人
薬剤師	69人	人	69.0人	作業療法士	7人	衛生検査技師	人
保健師	88人	人	88.0人	視能訓練士	9人	その他	人
助産師	49人	人	49.0人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	840人	23人	863.0人	臨床工学技士	23人	医療社会事業従事者	8人
准看護師	3人	人	3.0人	栄養士	2人	その他の技術員	34人
歯科衛生士	人	人	人	歯科技工士	人	事務職員	163人
管理栄養士	13人	人	13.0人	診療放射線技師	63人	その他の職員	4人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数  
 歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	906.05人	人	906.05人
1日当たり平均外来患者数	2,369.31人	人	2,369.31人
1日当たり平均調剤数	1,428 剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。





## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	多血小板血漿を用いた難治性皮膚潰瘍治療(平成23年2月申請)	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要	患者本人から30～60mLの末梢血を抗凝固剤共存下に採血し遠心分離用試験管に注入後、遠心分離し自己多血小板血漿を分取する。分取した多血小板血漿を患部(潰瘍部位)の大きさに応じた用量で塗布する。外来受診から治療施行までにかかる時間はおよそ最大で2時間である。潰瘍治癒の促進、肉芽形成促進、上皮化促進効果が期待される。これまでの細胞治療を補完する形での新たな潰瘍治療を患者に提供し、難治性慢性潰瘍の改善とそれに伴う早期社会復帰が可能となる。		
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	269人	・膿疱性乾癬	13人
・多発性硬化症	120人	・広範脊柱管狭窄症	1798人
・重症筋無力症	138人	・原発性胆汁性肝硬変	437人
・全身性エリテマトーデス	1458人	・重症急性膵炎	17人
・スモン	4人	・特発性大腿骨頭壊死症	78人
・再生不良性貧血	137人	・混合性結合組織病	187人
・サルコイドーシス	200人	・原発性免疫不全症候群	4人
・筋萎縮性側索硬化症	30人	・特発性間質性肺炎	31人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	610人	・網膜色素変性症	72人
・特発性血小板減少性紫斑病	117人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	62人	・肺動脈性肺高血圧症	155人
・潰瘍性大腸炎	379人	・神経線維腫症	10人
・大動脈炎症候群	35人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	188人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	82人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	8人
・脊髄小脳変性症	143人	・ライソゾーム病	0人
・クローン病	110人	・副腎白質ジストロフィー	2人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	3人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	105人
・悪性関節リウマチ	103人	・脊髄性筋萎縮症	14人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	558人	・球脊髄性筋萎縮症	6人
・アミロイドーシス	147人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	0人
・後縦靭帯骨化症	90人	・肥大型心筋症	192人
・ハンチントン病	3人	・拘束型心筋症	1人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	35人	・ミトコンドリア病	0人
・ウェゲナー肉芽腫症	85人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	37人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	83人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	42人	・黄色靭帯骨化症	32人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	1002人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・乳がんセンチネルリンパ節加算1	・
・センチネルリンパ節生検	・
・眼底三次元画像解析	・
・画像等手術支援加算:実物大臓器立体モデルによるもの	・
・抗悪性腫瘍剤感受性検査(HDRA法又はCD-DST法)	・
・超音波骨折治療法	・
・椎間板摘出術(後方摘出術) [先進医療名:経皮的骨形成術]	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	・乳腺症例検討会月/回 ・超音波症例検討会月/回 ・手術材料マクロ検討委員会週/回 ・消化管がんボード週/回 ・婦人科カンファレンス月/回 ・骨軟部カンファレンス2カ月/回
部 検 の 状 況	部検症例数 52 例 / 部検率 7.70%

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
別紙参照				
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計36

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
別紙参照			

計106

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
BRCA1ユビキチンリガーゼによるDNA損傷応答	太田 智彦	外科学(乳腺・内分泌外科)	3,200,000	補委 文部科学省
HPV-B19ウイルスタンパクによる血液凝固系への影響の解明	武藤 真二	小児科学	1,200,000	補委 文部科学省
遺伝子改変マウスを用いたBACH1の機能解析	速水 亮介	外科学(乳腺・内分泌外科)	1,600,000	補委 文部科学省
緑内障性視神経症の無髄軸索内ミトコンドリア行動異常の制御機構	宗正 泰成	眼科学	1,900,000	補委 文部科学省
嚢胞状卵胞の形成メカニズム:単一卵胞培養系を用いた解析	奥津 由記	産婦人科学(産科)	1,300,000	補委 文部科学省
アネキシン7を中心とした関節リウマチ病態と治療法の研究-プロテオミクスの応用-	加藤 智啓	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)	4,800,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
胚性幹細胞から分化誘導した網膜神経節細胞の移植による緑内障の治療	黒川 真奈絵	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)	600,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
気流制限における気管支鏡下カテーテル法による気道内圧測定	富澤 輝臣	内科学(呼吸器・感染症内科)	1,000,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
メラノサイト及びメラノーマ細胞におけるBMPとKit、Mitfとの相互関係	川上 民裕	皮膚科学	900,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
統合失調症患者に長期併用投与された抗コリン薬の減量中止に関する研究	宮本 聖也	神経精神科学	600,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
新規抗うつ薬結合蛋白質のDynamin-1過剰発現マウスの抗うつ薬投与後の行動解析	長田 賢一	神経精神科学	800,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
Basal-like乳癌の術前化学療法におけるDNA損傷応答の解析	太田 智彦	外科学(乳腺・内分泌外科)	1,000,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
親子の骨強化啓発活動の研究(骨粗鬆症の一次予防に骨量測定・栄養指導は必要か)	清水 弘之	整形外科学	300,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
卵巣組織移植に関する基礎的研究-若年女性がん患者の生活の質向上を志向して	鈴木 直	産婦人科学(婦人科)	600,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
糖脂質とトランスポーターの発現を指標にした卵巣癌の抗癌剤治療の適正化	木口 一成	産婦人科学(婦人科)	900,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
新規めまいリハビリテーションの開発を目的とした基礎研究	肥塚 泉	耳鼻咽喉科学	500,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
羊胎仔尿路閉塞による胎児治療は多嚢胞性異形成腎の発生分子に影響をあたえるか?	北川 博昭	外科学(小児外科)	1,100,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
色素性皮膚疾患の胚性医療学的インターベンション	熊谷 憲夫	形成外科学	600,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
敗血症に伴う重症末梢神経炎の発生機序の解明-第X因子阻害薬の保護効果の検討-	日野 博文	麻酔学	300,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
微弱電流は筋損傷の修復を促進させるか ~免疫組織化学的分析~	藤谷 博人	整形外科学	1,000,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
脳梗塞の進行増悪における炎症性バイオマーカーの変化とスタチンの効果に関する研究	長谷川 泰弘	内科学(神経内科)	1,100,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
H/H-MCAマイクロアレイを用いた食道癌治療法決定システムの開発	伊東 文生	内科学(消化器・肝臓内科)	700,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
間欠的虚血ストレスの糖尿病性腎症進行への影響と脂肪酸結合蛋白の役割	木村 健二郎	内科学(腎臓・高血圧内科)	700,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
早発閉経発症の分子機構-卵巣で発現するFMR1遺伝子の機能解析によるアプローチ	石塚 文平	産婦人科学(産婦人科)	1,000,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
ESD症例より得た胃洗浄液は早期胃がんのメチル化マーカー探索を可能にする	渡邊 嘉行	内科学(消化器・肝臓内科)	2,000,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
HTLV-1関連脊髄症(HAM)の脊髄再生治療法開発に関する研究	山野 嘉久	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)	1,300,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
血管炎の新規な病態関連因子-ペプチドミクスによる網羅的探索と臨床的意義の基盤解析	尾崎 承一	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)	1,900,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会



高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
プロテオミクスを用いた化学療法Naive患者の肝予備能障害メカニズムの解析	中野 浩	外科学(消化器・一般外科)	2,600,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
ES・iPS細胞を用いた網膜神経前駆細胞の分化機構の解析	鈴木 登	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)	1,900,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
疾患に関連する蛋白質<翻訳後修飾>の複数同時探索系の確立	加藤 智啓	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)	1,200,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
オートファジーを介した新規軸索保護経路の解明	北岡 康史	眼科学	1,800,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
再発性多発軟骨炎の診断と治療体系の確立	鈴木 登	免疫学・病害動物学	15,000,000	補 委 厚生労働省
CKD進展予防のための特定健診と特定保健指導のあり方に関する研究	木村 健二郎	内科学(腎臓・高血圧内科)	5,389,000	補 委 厚生労働省
繊維筋痛症の発症要因の解明及び治療システムの確立と評価に関する研究	岡 寛	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)	18,000,000	補 委 厚生労働省
ANCA関連血管炎のわが国における治療法の確立のための多施設共同前向き臨床研究	尾崎 承一	内科学(リ・膠・ア内科)	28,000,000	補 委 厚生労働省
治験の実施に関する研究〔滅菌調整タルク〕	宮澤 輝臣	内科学(呼吸器・感染症内科)	1,600,000	補 委 厚生労働省

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
ANTICANCER RESEARCH	Immunohistochemical Detection of Mutated Epidermal Growth Factor Receptors in Pulmonary Adenocarcinoma	HARUHIKO NAKAMURA	外科学(呼吸器外科)
J St Marianna Univ	A proposed classification of hemothorax based on etiologic and radiographic factors	Nakamura H	外科学(呼吸器外科)
Pediatric Surgery International	The usefulness of laryngotracheal separation in the treatment of severe motor and intellectual disabilities	Shima Hideki	外科学(小児外科)
小児がん	小児腎腫瘍改訂分類に基づく腎芽腫の組織学的再検討—後腎芽細胞優位型腎芽腫は予後良好か?—	青葉剛史	外科学(小児外科)
日本心臓血管外科学会雑誌	Edaravone による弓部大動脈手術時の脳保護効果	北中陽介	外科学(心臓血管外科)
Microbiol Immunol	Proteomic surveillance of autoantigens in patients with Behcet's disease by a proteomic approach.	Ooka Seido	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)
International Immunopharmacology	Regulation of antigen-specific CTL and Th1 cell activation through 5-Hydroxytryptamine 2A receptor.	Makoto Inoue	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)
Arthritis Research & Therapy	Dual role of IL-17 in pannus growth and osteoclastogenesis in rheumatoid arthritis	Ito H.	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)
日本臨床生理学会雑誌	Tissue mitral annular displacementを用いた高血圧患者における潜在性左室収縮機能障害の検討	鈴木健吾	内科学(循環器内科)
Herz	Scintigraphic Imaging in Tako-Tsubo Cardiomyopathy	Yoshihiro Akashi	内科学(循環器内科)
Angiology	Impact of Contrast-Induced Nephropathy and Cardiovascular Events by Serum Cystatin C in Renal Insufficiency Patients Undergoing Cardiac Catheterization	Yuki Ishibashi	内科学(循環器内科)
Med Sci Monit	Significance of 99mTc-Sestamibi myocardial scintigraphy after percutaneous coronary intervention in patients with acute myocardial infarction	Yoshihiro Akashi	内科学(循環器内科)
European Journal of Echocardiography	Changes in mitral regurgitation and left ventricular geometry during exercise affect exercise capacity in patients with systolic heart failure	Masaki Izumo	内科学(循環器内科)
Hypertension Research	Relationship between chronic kidney disease and sleep blood pressure in patients with sleep apnea syndrome	Hiromitsu Sekizuka	内科学(循環器内科)
Current Pharmaceutical Design	Takotsubo Cardiomyopathy	Keisuke Kida	内科学(循環器内科)
Plos One	E3 Ubiquitin Ligase Synoviolin is involved in liver fibrogenesis	Hasegawa Daisuke	内科学(消化器・肝臓内科)
Cancer Science	DNA methylation of interferon regulatory factors in gastric cancer and noncancerous gastric mucosae	Yamashita Masaki	内科学(消化器・肝臓内科)
Journal of St.Marianna University	Transient expression of nestin is related to the activation of pancreatic stellate cells	Negishi Ryujirou	内科学(消化器・肝臓内科)
Esophagus	Prospective study of definitive chemoradiotherapy with S-1 and nedaplatin in patients with stage II/III(non-T4) esophageal cancer	Tsuda Takashi	内科学(消化器・肝臓内科)
J Gastroenterol	Protein profiles of peripheral blood mononuclear cells are useful for differential diagnosis of ulcerative colitis and Crohn's disease	Hatsugai Moriaki	内科学(消化器・肝臓内科)
Gastroenterological Endoscopy	総胆管結石症に対するspiral-cone型ENBDカテーテルの使用経験	片倉芳樹	内科学(消化器・肝臓内科)
Gastroenterological Endoscopy	幽門狭窄を来した進行胃癌に対して経皮内視鏡的胃瘻造設術(PEG)の腸瘻化(PEG-J)が奏功した1例	山下真幸	内科学(消化器・肝臓内科)
肝臓	B型急性肝炎におけるHBs抗原陽性持続期間の検討	山田典栄	内科学(消化器・肝臓内科)
Gastroenterological Endoscopy	胃穿孔部の生検にて診断が得られた多形細胞型退形成癌の1例	中原一有	内科学(消化器・肝臓内科)
肝臓	当院および関連施設におけるB型肝炎ワクチン接種の有用性に関する検討	奥瀬千晃	内科学(消化器・肝臓内科)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
神経内科	脳卒中急性期の医療連携ー内科の立場からー	長谷川泰弘	内科学(神経内科)
神経内科	Parkinson病における側方屈曲を伴う体軸ジストニアー ー盆栽症候群とPisa症候群の比較ー	堀内正浩	内科学(神経内科)
日本臨床救急医学会雑誌	Over The Counter Drug(OTC医薬品)であるロート鼻炎ソフトカプセル ユア &#9415;Nの服用を契機に発症した横紋筋融解症の1症例	秋山久尚	内科学(神経内科)
脳卒中	国内他施設共同登録研究Stroke Acute Management with Urgent Risk-factor Assessment and Improvement(SAMURA)rt-PA Registry:全体成績とサブ研究の紹介	長谷川泰弘	内科学(神経内科)
International Journal of Emergency Medicine	Pneumocephalus as a complication of esophageal carcinoma	Takahiro Shimizu	内科学(神経内科)
BRAIN	Clinicopathological features of acute autonomic and sensory neuropathy	Masahiro Horiuchi	内科学(神経内科)
臨床神経学	脳梗塞急性期のスタチン投与が末梢血炎症性サイトカイン動態と急性期の進行増悪に与える影響	櫻井謙三	内科学(神経内科)
Clin Exp Nephrol	Clinical significance of tubular and podocyte biomarkers in acute kidney injury.	Matsui Katsuomi	内科学(腎臓・高血圧内科)
Clin Exp Nephrol	Mycoohenolate mofetil-induced agranulocytosis in a renal transplant recipient.	Matsui Katsuomi	内科学(腎臓・高血圧内科)
Am J Pathol	Renal Liver-Type Fatty Acid Binding Protein(L-FABP) Attenuates Acute Kidney Injury in Aristolochic Acid Nephrotoxicity.	Matsui Katsuomi	内科学(腎臓・高血圧内科)
人間ドック	エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2009.	木村健二郎	内科学(腎臓・高血圧内科)
日本内科学会雑誌	コレステロール塞栓症と急性腎不全.	安田 隆	内科学(腎臓・高血圧内科)
Medicina	水・ナトリウム代謝異常	柴垣有吾	内科学(腎臓・高血圧内科)
Endocrine Journal	Serum free testosterone and metabolic syndrome in Japanese men comparison with the umbilical fat area anthropometric indices	Katabami Takuyuki	内科学(代謝・内分泌内科)
Obesity Research&Clinical Practice		Furukawa Kentaro	内科学(代謝・内分泌内科)
Obesity Research&Clinical Practice	Intrahepatic lipid Content is linked to insulin resistance in obese subjects	Sada Yukiyooshi	内科学(代謝・内分泌内科)
Brain Research	kinesin-1 and degenerative changes in optic nerve axons in NMDA-induced neurotoxicity	栗林純子	眼科学
Journal of Neurochemistry	Modulation of mitochondria in the axon and soma of retinal ganglion cells in a rat glaucoma model	宗正泰成	眼科学
ICUとCCU	救命救急センター三次搬送患者の来院時バイオマーカー(B型ナトリウム利尿ペプチドとトロポニンI,D-dimer)による予後予測	吉田 徹	救急医学
日本婦人科腫瘍学会雑誌	Neoadjuvant chemotherapyとして動注療法を併用したconcurrent chemoradiotherapy(CCRT)	小林陽一	産婦人科学
Reproductive Medicine and Biology	Cryopreservation of ovarian tissue after pretreatment with a gonadotropin-releasing hormone agonist	Suguru Igarashi	産婦人科学
日本受精着床学会雑誌	多嚢胞性卵巣症候群の体外受精におけるリスク因子の検討	奥津由記	産婦人科学
Hum Cell.	Clinical significance of side population in ovarian cancer cells	Hosonuma S	産婦人科学
J Obstet Gynaecol Res.	Complete remission with intraperitoneal cisplatin followed by prolonged oral etoposide in a stage IIIc primary leiomyosarcoma of the fallopian tube patient.	Kobayashi Y	産婦人科学
J Obstet Gynaecol Res.	Psychological characteristics of Japanese gynecologic cancer patients after learning the diagnosis according to the hospital anxiety and depression scale.	Suzuki N	産婦人科学

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本婦人科腫瘍学会雑誌	子宮内膜間質肉腫18例の臨床病理学的検討 Clinicopathological study of 18 cases of endometrial stromal sarcoma	大原樹	産婦人科学
THROMBOSIS JOURNAL	Risk factors for perioperative venous thromboembolism:A retrospective study in Japanese women with gynecologic diseases	Nao Suzuki	産婦人科学
International Journal of Gynecologic Cancer	Transcription factor POU6F1 is important for proliferation of clear cell adenocarcinoma of the ovary and is a potential new molecular target.	Suzuki N	産婦人科学
Human Cell	Heterotopic autotransplantation of ovarian cortex in cynomolgus monkeys.	Igarashi S	産婦人科学
Reproductive BioMedicine Online	Effects of vitrification solutions and equilibration times on the morphology of cynomolgus ovarian tissues vitrified ultra-rapidly by direct plunging into liquid nitrogen.	Suzuki N	産婦人科学
The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research	Psychological Characteristics of Japanese Gynecologic Cancer Patients After Learning the Diagnosis According to the Hospital Anxiety and Depression Scale.	Suzuki N	産婦人科学
International Journal of Gynecologic Cancer	Clinical study on the efficacy of fluvoxamine for psychological distress in gynecologic cancer patients.	Suzuki N	産婦人科学
聖マリアンナ医科大学雑誌	聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科における上咽頭癌に対するneoadjuvant chemotherapyと交替療法の治療成績の比較	渡辺 昭司	耳鼻咽喉科学
耳鼻咽喉科臨床	舌扁平上皮癌の頸部郭清範囲と後発転移に対する救済率改善の検討	渡辺 昭司	耳鼻咽喉科学
Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry	Effects of discontinuation of long-term biperiden use on cognitive function and quality of life in schizophrenia.	Ogino S	神経精神科学
Journal of ECT	Predictors of response to electroconvulsive therapy obtained using the three-factor structure of the Montgomery and Asberg Depression Rating Scale for treatment-resistant depressed patients	Okazaki M	神経精神科学
日本神経精神薬理学雑誌	慢性ストレス後に生じるNE-CRHシステムの遅延的感受性亢進	藤原圭亮	神経精神科学
栃木精神医学	抗うつ薬の治療反応性と症候因ならびに性格因について—milnacipranを中心にして—	樋口久	神経精神科学
J.Artif.Organs	Brachial-brachial autogenous arteriovenous fistula in dialysis patient with Staphylococcus aureus bacteremia.	Sato Yoichi	腎泌尿器外科学
J.Artif.Organs	Brachial-brachial autogenous arteriovenous fistula in dialysis patient with Staphylococcus aureus bacteremia	Sato Y	腎泌尿器外科学
泌尿器外科	前立腺体積と高血圧・高脂血症・糖尿病・高尿酸血症・肥満との関係	佐々木秀郎	腎泌尿器外科学
泌尿器外科	ミニマム創内視鏡下根治的腎摘除術の導入	宮野佐哲	腎泌尿器外科学
日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会雑誌	腹腔鏡下小切開腎摘除術導入10例の経験	宮野佐哲	腎泌尿器外科学
Hip Joint	人工股関節置換術症例における冠状面骨盤傾斜の検討～第2報～	増田敏光	整形外科
MB Orthop	特集:外反母趾の治療. Lapidus変法	仁木久照	整形外科
整形・災害外科	企画:特集, リスフラン関節損傷	仁木久照	整形外科
THE JOURNAL OF BONE & JOINT SURGERY	Acetabular and proximal femoral alignment in patients with osteoarthritis of the dysplastic hip and its influence on the progression of disease	H.Aoki	整形外科
MB Orthop	リウマチ変形性の診断と治療(1): 中足骨近位短縮骨切りによる関節温存手術の概念とその成績. 特集:足趾の痛みの診断と治療.	仁木久照	整形外科
日足外会誌	日本足の外科学会 足部・足関節治療成績判定基準(日本語版)	仁木久照	整形外科
日足外会誌	日本足の外科学会 足関節・後足部判定基準(JSSF ankle/hindfoot scale)	仁木久照	整形外科

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日足外会誌	日本足の外科学会 中足部判定基準(JSSF midfoot scale)	仁木久照	整形外科
日足外会誌	日本足の外科学会 母趾判定基準(JSSF hallux scale)	仁木久照	整形外科
日足外会誌	日本足の外科学会 2~5趾判定基準(JSSF lesser scale)	仁木久照	整形外科
日足外会誌	日本足の外科学会 RA足部・足関節判定基準(JSSF RA foot ankle scale)	仁木久照	整形外科
MB Orthop	強剛母趾の診断と治療 特集:足趾の痛みの診断と治療	仁木久照	整形外科
Medicament News	整形外科領域の術後感染予防対策	松下和彦	整形外科
整形・災害外科	抗菌薬の予防投与法	松下和彦	整形外科
Osteoporosis Japan	中学・高校生と母親に対する骨量検診の有用性と限界について	清水弘之	整形外科
Modern Physician 特集ロコモティブシンドローム	変形性股関節症	別府諸兄	整形外科
超音波医学	超音波検査の作業管理	中島浩志	整形外科
骨粗鬆症治療(先端医学社)	大腿骨近位部骨折の予防—運動療法 健康中高年への積極的運動療法の展開(ロコモ対応の体操)	別府諸兄	整形外科
日足外会誌	軽微な離開を呈したリスフラン関節損傷治療後の再転位についての検討.	平野貴章	整形外科
JOSKAS	骨付き膝蓋腱を使用したACL再建術の脚伸展筋力及び膝伸展・屈曲筋力の推移について	宮本 哲	整形外科
日本手外科学会雑誌	月状骨脱臼および周囲脱臼の治療経験	清水弘之	整形外科
整形・災害外科	特集:リスフラン関節損傷リスフラン関節の解剖—リスフラン靭帯を中心に—	平野貴章	整形外科
関節外科	特集:足関節インピンジメントの病態と治療. 足関節インピンジメントの画像診断	岡田洋和	整形外科
ル 肘関節鏡視下クリーニングの 適応 (株)全日本病院出版会 東京	リウマチ肘に対する鏡視下滑膜切除術	新井 猛	整形外科
関節外科	高齢者・超高齢者RA患者に対する手術適応と手術の実際(手疾患患者への手術適応と手術の実際)	清水弘之	整形外科
Hip Joint	人工股関節全置換術における静脈血栓塞栓症の予防	石井庄次	整形外科
Hip Joint	人工股関節置換術における脱水が深部静脈血栓症に与える影響について	蒲地宏昌	整形外科
日本手外科学会雑誌	安定性に評価からみたリウマチ手関節の術式選択	清水弘之	整形外科
MB Orthop	強剛母趾の診断と治療 特集:足趾の痛みの診断と治療	仁木久照	整形外科
日本手外科学会誌	AOC3型橈骨遠位端骨折におけるロッキングプレート固定の問題点	泉山 公	整形外科
日本骨・関節感染症学会雑誌	予防投与における抗菌薬選択の検討	倉持大輔	整形外科
Journal of the Amerikan Academy of dermatology	Use of warfarin therapy at a target international normalized ratio of 3.0 for cutaneous polyarteritis nodosa.	Tamihiro Kawakami	皮膚科学

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of the American Academy of dermatology	IgM in lesional skin of adults with Henoch-Schönlein purpura is an indication of renal involvement.	Sora Takeuchi	皮膚科学
Acta Dermatology Venereologica	Microscopic Polyangiitis Associated with Antiphospholipid Antibodies and Immune Complex Mediated Cutaneous Vasculitis	Kawakami Tamihiro	皮膚科学
Medicine	Correlation of Livedo Racemosa, Cutaneous Inflammatory Plaques, and Antiphospholipid Antibodies in patients With Cutaneous Polyarteritis Nodosa	Kawakami Tamihiro	皮膚科学
Journal of Dermatology	Questionnaire survey of the efficacy of emollients for adult patients with atopic dermatitis	Kawakami Tamihiro	皮膚科学
THROMBOSIS JOURNAL	Risk factors for perioperative venous thromboembolism:A retrospective study in Japanese women with gynecologic diseases	Nao Suzuki	産婦人科学
Cancer Science	Adipocytokines as new promising markers of colorectal tumors:Adiponectin for colorectal adenoma, and resistin and visfatin for colorectal cancer	Takako Eguchi Nakajima	臨床腫瘍学

計 106

(注)

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 幕内 晴朗		
管理担当者氏名	総務部長 薄井隆文、人事部長 松本敏男、事務部長 細谷実知博 薬剤部長 増原慶壮、臨床検査部長 信岡祐彦、画像センター長 栗原泰之 看護部長 高橋恵、栄養部長 川島由起子		
		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		事務部、薬剤部 看護部、臨床検査部、画像センター、メディカルサポートセンター	診療記録は平成17年8月から電子化を開始した。診療記録は1患者1カルテ方式とし、入院は10年、外来は5年の保存期間を規定としている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
	高度の医療の提供の実績	事務部	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	事務部	
	高度の医療の研修の実績	事務部	
	閲覧実績	事務部	
	紹介患者に対する医療提供の実績	メディカルサポートセンター	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項各号及び第九の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
	第一項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
	各号及び第九條	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
	第二十三條	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第一項	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第一号に掲げる体制の確保の状況	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	クリニカルエンジニア部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	クリニカルエンジニア部
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	クリニカルエンジニア部	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	クリニカルエンジニア部	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。



(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 幕内 晴朗
閲覧担当者氏名	事務部長 細谷 実知博
閲覧の求めに応じる場所	事務部 管理課

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	2件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 1件
	地方公共団体	延 1件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	68.9%	算定期間	平成22年4月1日～平成23年3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数		26,755人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		14,229人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		3,984人
	D：初診の患者の数		51,037人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療安全管理指針 平成12年4月1日策定 平成15年9月29日改正 平成16年3月1日改正 平成20年2月1日改正 平成21年1月1日改正 平成22年4月1日改正 平成23年5月1日改正</li><li>・ 指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. 基本理念</li><li>2. 用語の定義</li><li>3. 委員会、組織</li><li>4. マニュアルの整備</li><li>5. 職員研修</li><li>6. 報告制度</li><li>7. 医療事故等発生時の対応</li><li>8. 患者からの相談への対応</li><li>9. 指針の閲覧および医療従事者と患者との情報共有</li><li>10. 指針の改訂</li></ol></li></ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	
<p>1. 医療安全対策委員会（年16回 内訳：定例11回 臨時5回）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 人員構成：危機管理担当副院長、医療安全管理室長、医療安全管理者、医療機器安全管理者 医薬品安全管理責任者、感染制御部長を含む 医師13名、看護師2名、薬剤師1名、管理栄養士1名、臨床検査技師1名、事務職2名で 構成</li><li>・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1) 医療安全に係る事項の審議<ul style="list-style-type: none"><li>* 医療安全管理に係る基本方針</li><li>* リスクマネージャー会議・安全管理室からの提言内容に関すること</li><li>* 医療安全対策の立案・実施に関すること</li><li>* 医療安全推進に関すること</li></ul></li><li>2) 事故発生時の対応<ul style="list-style-type: none"><li>* 事故報告書（アクシデント・合併症・バリエーション報告書）の確認</li><li>* 患者・家族、マスコミに対する病院としての対応策の検討</li></ul></li><li>3) 医療安全管理室への改善策等の提言</li></ol></li></ul> <p>2. リスクマネージャー会議（年12回）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 人員構成：事故防止担当副院長、医療安全管理室長、医療安全管理者を含むリスクマネージャー （医師35人、看護師33人、技術職14人、事務員10人）</li><li>・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1) 当院のインシデント・アクシデント事例の共有</li><li>2) 事故防止の発生要因分析と対策の検討とその評価</li><li>3) マニュアル、事故防止対策の実施状況および評価</li></ol></li></ul>	

## ③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

平成22年度42回

## 1) 全職員対象

回数・内容	開催日時	講師名	対象者	参加人数
第1回 自動体外除細動器(AED)について	本講演:4/26, 4/28 ビデオ講演:5/11 17:30~ 18:15 ビデオ貸出:5/17~6/4	小山 泰明先生 (当院救命救急センター 医師)・ 矢田 哲康先生(当院 CE 部 臨床工学技士)	平成 22 年度入職者 及び AED 研修会未受講の全職員	645 人
第5回 院内暴力・暴言対応について～コードホワイトシステム運用開始！～	本講演:10/25,10/28 ビデオ講演: 11/17,11/30 17:30~ 18:30 ランチビデオ講演: 11/26 12:15~13:15 ビデオ貸出:1/20~2/22	賀美 道夫先生、 吉野 茂先生 (当院 医療安全管理室) 時田 正男 先生 (本学 総務課)	全病院職員および 管理日直・管理当直 担当事務職員	1793 人
第6回 重大医療事故発生想定訓練	本講演:2/9 ビデオ講演:2/24,25,28 17:30~18:30 ランチビデオ講演:2/24 12:15~13:00 ビデオ貸出:3/1~3/28	医療安全管理室	全病院職員	1521 人

KYT研修会	基礎編	6/8,7/6,11/9,12/7	竜トシ子 (当院医療安全管理者)	全病院職員(先着 30名) リスクマネージャーは必須	65 人
	実践編	11 月 24 日	竜トシ子 (当院医療安全管理者)	全病院職員(先着 30名) リスクマネージャーは必須	12 人
eラーニング研修	平成 22 年度 6 点未満者研修	H23.5.13~H23.6.13		平成 22 年度 6 点未満全職員	716 人
	平成 22 年度 6 点未満者再研修	H23.7.25~H23.8.25		6 点未満者研修未受講の全職員	86 人

合計 4,838 人

## 2) 対象者限定

内容	開催日時	講師名	対象者	職種内訳					参加人数
				医師	看護師	その他有資格者	事務員	病院職員以外	
医療安全研修	4月8日	医療安全管理室	研修医	43					43人
第2回医療安全職員研修 当院の患者急変対応システムについて ～RRSとコードブルー・コード2～	本講演: 5/24,5/26 ビデオ講演: 6/2 17:30～ 18:15 ビデオ貸出: 6/15～7/13	児玉 貴光先生 (当院救命救急センター医師)	医師・看護師・全リ スクマネージャー	266	680	31	31	7	1015人
第3回医療安全職員研修 医薬品の安全使用について	本講演: 7/14,7/16 ビデオ講演: 7/22 17:30～ 18:15 ビデオ貸出: 7/23～8/23	濱野 公俊先生、 伊藤 由香先生、 今井 みどり先生 (当院 薬剤部薬剤師)	医師・看護師・薬剤師・診療放射線技師・臨床工学技士・リスクマネージャー	209	678	161	3	0	1051人

インシデント・アクシデント・ 合併症報告	10月27日	医療安全管理室	研修医	19					19人
安全な与薬	5/7, 5/11, 5/12, 5/14	医療安全管理室	新人 看護師		152				152人
医療 KYT	11月4日	医療安全管理室	副師長		29				29人
第1回中途入職者 研修	7/21,7/29	医療安全管理室	中途 入職者	1	6	1	13		21人
第2回中途入職者 研修	11/18, 11/22	医療安全管理室	中途 入職者	8	4	1	12		25人
第3回中途入職者 研修	2月23日	医療安全管理室	中途 入職者	1	4	0	2		7人
医療安全について	3/22,24,29,3 0	医療安全管理室	入職前 看護師		148				148人

合計 2,510名

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 医療安全マニュアルについて、電子カルテシステムにアップしていることに加え、紙媒体として製本冊子化し各部署に備え付けた。(平成23年9月1日)</li> <li>2) CVC認定医制度の実施(平成23年4月1日)</li> <li>3) RRS (Rapid Response System) 対象病棟の拡大</li> </ul> </li> </ul>	(有)・無)
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	(有) (1名) ・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有) (7名) ・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員： 専任8名(看護師2名、事務職員6名) 兼任6名(医師3名、薬剤師1名、診療放射線技師1名、臨床工学技師1名)</li> <li>・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 事故防止に関する活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 医療安全管理指針の周知徹底</li> <li>* インシデント・アクシデントレポートの集計、分析、改善策の検討・策定・評価、管理</li> <li>* 各部門のリスクマネージャーとの連絡調整</li> <li>* 医療安全に関するマニュアル、手順の作成と更新</li> <li>* 各部門の安全活動状況の把握(巡視)と指導</li> </ul> </li> <li>2) 事故調査に関する活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 事故発生時の調査、分析と改善策の検討・策定・評価</li> </ul> </li> <li>3) 安全教育・啓蒙活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 安全管理に関する教育・研修の企画、運営</li> <li>* 至急回報、e-ラーニング研修の配信</li> <li>* 安全管理に関する会議の運営</li> </ul> </li> <li>4) 患者相談業務 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 苦情、相談の受付及び処理</li> <li>* 苦情、相談等に係る調査及び報告</li> <li>* 患者相談窓口の管理運営</li> <li>* 苦情、相談事案の改善、活用</li> <li>* メディエーターに関すること</li> </ul> </li> <li>5) 紛争処理業務 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 医療紛争の処理</li> <li>* 医療の法務・訴訟</li> <li>* 証拠保全等行政・司法機関からの照会等対応</li> <li>* 医療事故、紛争の調査</li> </ul> </li> <li>6) 院内警備(保安)に関すること</li> </ol> </li> </ul>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	(有)・無

## (様式第 13-2)

## 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
<p>・指針の主な内容：「医療関連感染対策指針」を作成し、院内マニュアルである「院内感染防止の手引き（第4版）」の冒頭に掲載している。指針の主な内容は以下の通りである。1. 基本理念、2. 感染管理に係る組織、委員会、3. 職員研修、教育の実施、4. 感染対策マニュアルの整備、5. 医療関連感染サーベイランスの実施、6. 適正抗菌薬療法の推進、7. 職業感染防止、8. 院内感染発生時の対応、9. 患者への情報提供と説明、10. 指針の改訂（2011年10月1日改訂）</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	1年 11回
<p>・活動の主な内容：夏期休暇を除く毎月感染委員会が開催されている。委員長は微生物学教授で、委員は感染制御部、主たる診療科医師、看護部、臨床検査部、薬剤部、病理部、事務（施設、管理、人事など）の職員で構成されている。活動の主な内容は以下の通りである。1. 院内感染サーベイランスを含む疫学に関する事。2. 院内感染の発生の要因及び対応に関する事。3. 滅菌及び消毒に関する事。4. 院内感染で注意すべき微生物及びその感染防止に関する事。5. 原因微生物別感染防止対策に関する事。6. 用途別、菌種別消毒薬に関する事。7. 感染症法等で規定された感染症の届出に関する事。8. 感染症報告書に関する事。9. 労働災害上の感染措置、取扱いに関する事。10. 院内感染防止のための検査に関する事。11. 環境微生物検査に関する事。12. 感染性廃棄物の適正処理に関する事。13. 院内感染防止マニュアルの改訂に関する事。14. 病院長からの諮問事項に関する事。15. その他、感染防止に関する事。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	1年 約19回
<p>・研修の主な内容：全職員対象の研修会を毎年2回定例で開催している。それ以外に、新入職員に対する講習、新入職看護補助者を対象にした講習、看護師を対象にした講習（コース）、初期臨床研修医を対象とした講習、臨床検査技師を対象にした講習、院内清掃業者を対象にした講習などを合計すると年間17回程度の講習会を開催している。研修の主な内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染の発生要因分析と改善策等の検討及びその評価</li> <li>2. マニュアル、改善策等の実施状況及び効果の評価</li> <li>3. 感染防止の推進に関する事項</li> </ol> <p>※平成22年度研修会（全職員対象）内容：「院内ラウンドを通じて見えてくる感染症対策」（感染担当者意見交換会）、「当院のインフルエンザワクチン接種状況について」「海外で問題となりつつある多剤耐性菌の現状」（感染症学術講演会）（対象者別に行った講演会）「院内感染防止対策」、「感染防止技術の講義と演習」、「感染対策（MRSA）」、「ゴーグルの必要性」、「ノロウイルス対策」、「環境及び手指検査」、「標準採血法ガイドライン」、</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・病院における発生状況の報告等の整備 <span style="float: right;">（ <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 ）</span></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「感染症発生報告書」に基づいて行政へ報告を行い、毎月院内向けに集計・報告している。</li> <li>2. 毎月診療科毎の臨床分離菌の検出状況、薬剤感受性を集計して報告している。</li> <li>3. 診療科毎の抗菌薬使用状況を集計して報告している。</li> <li>4. サーベイランスを実施（SSI・針刺し切創など）し、院内講習等で報告している。</li> </ol> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 抗MRSA薬の使用届出制度（電子カルテによる症例の確認）</li> <li>2. 細菌検査室からの報告（日報・週報）に基づいて症例毎に助言を行う。</li> <li>3. ICTによる病棟ラウンド・コンサルテーションの実施</li> <li>4. 当院のマニュアルである「院内感染防止の手引き」の内容の追加・変更と職員への周知</li> <li>5. 「感染制御部ニュース」（ニュースレター）の発行</li> </ol>	



(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 20 回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容：平成22年度 医療安全職員研修会 医薬品の安全使用について 新人看護職員技術研修 安全な与薬（薬剤師の立場から） 薬剤師による病棟研修会（化学療法について、術前中止薬について、採用薬の説明など）</li></ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>手順書の作成 (有)・無 )</li><li>業務の主な内容： 医薬品保管管理・調剤・供給・情報提供・安全使用・教育研修 年3回、医薬品安全管理に関する定期巡回を実施 その回毎に重点項目を決め、保管状況、期限等を確認する。</li></ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>医薬品に係る情報の収集の整備 (有)・無 ) 薬剤部内に医薬品情報室を設置し、製薬会社、DSU、PMDA、海外文献、学会誌、大学図書より最新情報を入手し、情報提供を行っている。 また、院内で起こった副作用を収集し、薬事委員会で周知徹底をしている。</li><li>その他の改善のための方策の主な内容： 2010年度<ul style="list-style-type: none"><li>「1病棟1名」の、病棟担当薬剤師の配置が完了した。 医師看護師等の医薬品に対する疑問への情報提供を短時間で行う。 情報提供をカンファレンスや病棟会で密に行う。</li></ul>2011年度<ul style="list-style-type: none"><li>薬剤部以外で抗がん剤を調整する場合の手順作成</li></ul></li></ul>	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 数 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：</li><li>・ 人工呼吸器、ポンプなど全部署で使用する機器に関して新入職者、新研修医を対象とした研修会を年1回行っている。人工呼吸器などは必要に応じ病棟単位で1年を通し行っている。</li><li>・ 救命センターなど特殊な機器を使用する部署には、研修医などの移動時にCHDF、PCPSなどの操作説明を行っている。</li></ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 計画の策定 (有・無)</li><li>・ 保守点検の主な内容：</li><li>・ 中央管理機器 (人工呼吸器、シリンジポンプ、輸液ポンプ等) な使用後の終業点検と年1回の定期点検を行っている。</li><li>・ 病棟に設置してある除細動器などは定期的なラウンドと年1回の定期点検を行っている。</li></ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：</li><li>・ 医療機器の不具合などの情報は、メーカーより事務局に集中して入るようになっています。</li><li>・ 医薬品医療機器総合機構などより情報を収集</li><li>・ 収集した情報は療機器安全管理委員会名で教職員にメール配信</li></ul>	

## 特定機能病院の業務報告書の記載事項

	業務報告書における事項	対象となる期間	様式
1	高度の医療の提供の実績	平成22年度 1年分	様式第10
2	高度の医療技術の開発及び評価の実績	平成22年度 1年分	様式第11
3	高度の医療に関する研修の実績	平成22年度 1年分	様式第9
4	診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法	平成23年10月1日現在	様式第12
5	診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績	平成23年10月1日現在 閲覧の実績は、平成22年度 1年分	様式第13
6	他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績	平成22年度 1年分	様式第13
7	医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数	平成23年10月1日現在	様式第9
8	入院患者、外来患者及び調剤の数	平成22年度平均値(1日当たり)	様式第9
9	歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数	平成22年度平均値(1日当たり)	様式第9
10	専任の医療に係る安全管理を行う者及び専任の院内感染対策を行う者の配置	平成23年10月1日現在	様式第13-2
11	医療に係る安全管理を行う部門の設置	平成23年10月1日現在	様式第13-2
12	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保	平成23年10月1日現在	様式第13-2
13	医療に係る安全管理のための指針の整備	平成23年10月1日現在	様式第13-2
14	医療に係る安全管理のための委員会の開催	平成22年度 1年分	様式第13-2
15	医療に係る安全管理のための職員研修の実施	平成22年度 1年分	様式第13-2
16	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策	平成23年10月1日現在	様式第13-2
17	院内感染対策のための指針の策定	平成23年10月1日現在	様式第13-2
18	院内感染対策のための委員会の開催	平成22年度 1年分	様式第13-2
19	院内感染対策のための職員研修の実施	平成22年度 1年分	様式第13-2
20	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施	平成23年10月1日現在	様式第13-2
21	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置	平成23年10月1日現在	様式第13-2
22	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施	平成22年度 1年分	様式第13-2
23	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施	平成23年10月1日現在	様式第13-2
24	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施	平成23年10月1日現在	様式第13-2
25	医療機器の安全使用のための責任者の配置	平成23年10月1日現在	様式第13-2
26	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施	平成22年度 1年分	様式第13-2
27	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施	平成23年10月1日現在	様式第13-2
28	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施	平成23年10月1日現在	様式第13-2